

記念誌の刊行にあたって

藤 垣 芳 文

2011年3月31日をもって幸村千佳良先生と相原修先生のお二人の先生が成蹊大学経済学部を退職されました。両先生には長年にわたって本学部の発展のために様々な面で多大な貢献を頂きました。両先生との交遊のなかで私たちは格別のご厚誼とご指導を賜わることができました。私たちにとって、今後それに接する機会が希少になることは、まことに残念でなりません。ここに改めて両先生に対して深く感謝するとともに、本誌を両先生の退職記念号として捧げたいと思います。

幸村先生は1980年本学部助教授として就任され、1982年教授に昇任されました。さらに2008年からは成蹊大学特別任用教授を3年間勤められ、そしてこのたびのご退職となりました。この間、本学部においては、マクロ経済学や金融論に関する講義やゼミでの授業を通して大変に熱心に学生の教育にあたられるとともに、この専門分野での研究活動を精力的に進められ、次々と秀逸な研究成果を発表することで、わが国の経済学の発展に大きな貢献を果たしてこられました。

幸村先生は金融論を専門とされ、業績書に記されているように、この分野において沢山の研究書、研究論文を執筆しておられます。最近では金融の歴史や制度にも深い関心を寄せられ、イギリス銀行史に関する原資料の収集を精力的に行い、その分析に基づく一連の研究成果を、本学部紀要を中心に、継続的に発表しておられます。先生の専門畑のこうした実証研究は、先生の頭脳に納められた経済理論の強固な体系によって着実に裏打ちされたものであることは疑いないところですが、この理論分野においても先生は沢山の著作物を著しておられます。なかでもマクロ経済学の教科書として執筆されたものは好著に富み、私自身も担当授業のテキストとして長年にわたって使わせていただいていたものがいくつかあります。

就任中、幸村先生は、アジア太平洋研究センター長、経済学部長、経済学研究科長、学園評議員など、多くの要職を務められました。アジア太平洋研究センター長に就任中の1999年3月には、同センターで開催された成蹊大学創立50周年記念国際シンポジウムを企画運営し、その成果を *Dreams and Dilemmas: Economic Friction and Dispute Resolution in the Asia-Pacific* とい

う論文集にまとめておられます。また、経済学部長時代の2001年には、本学部入学制度改革の一環としてAOマルデス入試が導入されましたが、この入試制度は、その後、本学の全学部に導入されることになりました。

同じく学部長時代の2002年から2003年にかけては、経済学部の組織改革とカリキュラム改革を目指し、その基本理念と実施計画の策定に向けて、精力的に指揮を執られました。2004年、次の高木新太郎学部長のときに、この大改革は実現されることとなりますが、幸村先生の強力な実行力をともなうリーダーシップがなかったとしたら、この改革は単なる夢でおわっていたのではなからうかと私には思われます。要職を離れられた後は、経済学部、あるいは成蹊大学の、いろいろな催しの折に、趣味を活かしての写真撮影で、すべての教員がお世話になっており、これには皆が幸村先生に大いに感謝しているところではありますが、それ以前の時期での幸村先生の精力的なご努力があったればこそ、現在の経済学部があるといっても過言ではないわけで、私たちはこの点にこそ今まさに幸村先生に対して感謝の意を表明しなければならぬと考えるところであります。

相原先生は1977年一橋大学大学院商学研究科を修了と同時に本学部専任講師に就任され、その後1980年に助教授に昇任、1986年には教授に昇任されました。1996年から1998年にかけては、卓越したフランス語の能力を活かして、フランスESCPでの在外研究に携わっておられます。

定年までになお3年を残しての希望退職ということで、経済学部としては34年間にもわたって教鞭を執っていただいた優秀で経験豊かな先生に去られるのは大変に辛いことではありますが、新たな教育研究の場での相原先生のますますのご活躍、ご発展を祈念し、お認めした次第であります。

就任中、相原先生は、経営学科主任、大学評議員、経営学研究科長、学園評議員等の要職を歴任され、経済学部、成蹊大学、成蹊学園の発展に尽くされました。ついでに言えば、上に述べた2001年導入の経済学部AOマルデス入試の「マルデス」という名称は、「多元的審査基準」を意味するコピーとして、相原先生が独創的に考案された名称であることは、関係者の多くが知るところのものです。また、就任中の34年の間、経営学、マーケティング論、広告論等に関する講義やゼミの授業を通して、非常に熱心に学生の教育にあたってくださいました。

学術面では、ご専門のマーケティング論を中心に、沢山の研究書および研究論文を執筆されるとともに、日本商業学会、日本マーケティングサイエンス学会、フランスマーケティング学会、日本広告学会、日本フードサービス学会等の学会に所属して、意欲的に研究活動を進めておられます。これらの学会においては、現在、理事（日本商業学会）、評議員（日本広告学会）、副会長（日本フードサービス学会）などの役職を担われ、これら学会のよりいっそうの発展のためにもご尽力されておられます。相原先生の今後の一層のご活躍、ご発展をお祈りいたします。

幸村先生と相原先生の様々な分野での貢献、ご活躍を振り返ってみますと、改めて両先生の功績の大きさ、私たちが両先生から受けた恩恵の大きさに、思いが至ります。なお、加えて申し上げれば、両先生は、2011年4月1日、退職されると同時に成蹊大学名誉教授の称号を贈呈されました。今後ともこれまでと変わらぬ私たちへの叱咤勉励をお願い申し上げますとともに、両先生の益々のご健勝と一層のご活躍を心より祈念する次第であります。